

平成18年度『手づくり郷土賞』^{ふるさと}

近年、全国各地において、その地域に固有の自然や歴史、伝統、文化に根ざし、地域の個性、独自性を活かした地域づくりの試みが活発化しています。こうした試みは、地域の持つ「よさ」を再認識し、より魅力ある地域づくりをめざして行われるものであり、地域の方々の積極的な参画が得られているケースも多くみられます。

「手づくり郷土賞」は、このような状況を踏まえ、地域の個性、魅力を創出している各種の良質な社会資本を広く募集、発掘し、これを世に広く紹介することにより、このような社会資本整備にあたっての創意・工夫・努力を促し、ゆとりとうるおいのある個性的な地域づくりの一助とすることを目的として、昭和61年度に創設された国土交通大臣（旧建設大臣）表彰制度であり、今年度は21回目になります。

近年の社会情勢等を踏まえると、多様な主体の参加と連携による地域づくりを一層推進するとともに、地域づくり活動の意欲を増進することが必要となっています。そのため、国土交通省は、平成13年度から、社会資本と関わりを持ちつつ、地域の個性、魅力、活力を創出している、地域における民間を含めた良質な活動についても表彰することとし、良質な社会資本を表彰する〔地域整備部門〕と、社会資本と関わりを持つ良質な活動を表彰する〔地域活動部門〕の2部門で実施しています。また、昨年度から、「手づくり郷土賞」を受賞してから10年以上にわたって地域の魅力を創出し、または地域のシンボルとなっている各種の良質な社会資本を選定する〔大賞部門〕を設けました。

今年度は、全国各地から〔地域整備部門〕12件、〔地域活動部門〕27件、〔大賞部門〕18件、合計57件の応募があり、そのうち〔地域整備部門〕7件、〔地域活動部門〕14件、〔大賞部門〕9件、合計30件が選定されました。

北海道からは〔地域整備部門〕は該当なし、〔地域活動部門〕に函館市から推薦された『市民創作「函館野外劇」』（活動主体：NPO法人市民創作「函館野外劇」の会）と稚内市から推薦された『Wakkanai みなとコンサート』（活動主体：稚内のみなとを考える女性ネットワーク）、〔大賞部門〕に沼田町の「ほたるの里」が選定されました。

認定証伝達式は、11月30日に稚内市、12月5日に函館市、12月7日に沼田町でそれぞれ行われました。選定された活動及び物件に対して、活動団体または町へ、本多満北海道開発局長から認定証が伝達され、佐々木寛(財)北海道開発協会専務理事から記念品が贈呈されました。



市民創作「函館野外劇」

(活動主体：NPO法人市民創作「函館野外劇」の会)

【地域活動部門】

函館市



市民創作「函館野外劇」は、函館の歴史の歩みを約90分間に凝縮した壮大な歴史絵巻の野外劇です。毎年7～8月の週末に全10回、特別史跡「五稜郭跡」を舞台として、公演を行っています。

フィリップ・グロード神父の出身地である、フランスのル・ピディフ地方で古城を舞台として行われている野外劇がルーツです。神父は、「函館でも、五稜郭のすばらしいロケーションを活かし、函館地方のダイナミックな歴史をテーマに野外劇を始めてはどうか」と提案しました。昭和62年グロート神父を会長に、市民創作「函館野外劇」の会が設立されました。出演者・スタッフ・スポンサー探し、舞台準備が進められ、翌年、第1回函館野外劇「五稜郭（ほし）を永遠（とわ）に」が上演されました。



函館野外劇は、出演者・スタッフとも多くのボランティアに支えられています。出演者たちは、一人が衣装を着替えて数役をこなし、時には裏方を手伝うこともあります。参加者の年齢層は広く、子供からお年寄りまで、毎回約500人の市民が参加しています。

Wakkanaiみなとコンサート

(活動主体：稚内のみなとを考える女性ネットワーク)

【地域活動部門】

稚内市

Wakkanaiみなとコンサートは、毎年8月に稚内港北防波堤ドームを会場として、市内小中高校の吹奏楽部や市民コーラス、アマチュアバンドなどが出演するステージイベントです。

会場の北防波堤ドームは、一年を通じて強風と高波に見舞われる最北端の風の街稚内と樺太を結ぶ航路の発着場を守る防波堤として、昭和11年に完成しました。古代ローマ建築を思わせる円柱とアーチ屋根をもつドーム型の防波堤です。





戦前、樺太航路が発着していた稚内港、戦後は利尻・礼文島への離島航路や沖合い底引き漁業など港で栄えてきた稚内市の経済は、近年200海里問題などで陰りを見せ始めています。そのような状況を打開しようと、平成15年5月に、市内の女性有志で「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」を結成しました。「みなと街の元気は港から」をモットーに、イベントや各種活動を通じて、「港」に関する理解を深め、必要な港湾整備やみなとまちづくりに女性の声を反映させ、「活気ある稚内」を再現することを活動目的としています。

ほたるの里

【大賞部門】

沼田町



ほたるの里は、沼田町市街地から車で15分程離れた幌新地区にあります。豊かな自然や良好な環境に恵まれ、良質な硫黄鉱泉による温泉施設（ほろしん温泉）や野外活動施設（オートキャンプ場、テニスコート、ローラースケート場など）が整備されています。

沼田町では、この地域の良い環境の保全や自然体験などの取り組みを進めるため、ほたるの飼育や鑑賞に着目し、岐阜県可児市のほたるの会の協力を得ながら、取り組みを始めました。その結果、夏場には、2～3千匹のほたるが乱舞し、多くの人の目を楽しませています。また、北海道では初のゲンジボタルの繁殖にも成功しています。

手づくり郷土賞受賞をきっかけに、平成7年にはホタルの生態を学べる「沼田町ほたる学習館」や「沼田町ほたるの里オートキャンプ場」が整備されました。当初、2000人弱の参加者だった「ほたる鑑賞会」は、「ほたるまつり」として、道内外から期間中に2万人もの観光客が訪れる夏のイベントとして定着しています。

（全国の選定結果）

http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha06/01/011115_.html

